

Peter Sellars

ピーター・セラーズ（演出・フェスティバルディレクター）

アメリカ・ピッツバーグ出身の演出（オペラ・演劇）、フェスティバルディレクター。古典作品の大胆で革新的な解釈が世界的に高く評価されており、20世紀以降の現代音楽のよき理解者でもある。独特な視点でコラボレーションプロジェクトを手がけており、人種問題や戦争、貧困や難民問題といったモラルや社会問題のためのアートにも積極的に取り組んでいる。

これまで、演出をオランダ国立オペラ、イングリッシュ・ナショナルオペラ、エクサンプロヴァンス音楽祭、シカゴ・リリック・オペラ、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭など、多くの主要な歌劇場やフェスティバルで手がけている。

作曲家ジョン・アダムス（John Adams）とは『ニクソン・イン・チャイナ』『クリングホフファーの死』『エルニーニョ』『ドクター・アトミック』『もう一人のマリアによる福音（The Gospel According to the Other Mary）』『西部の娘たち（The Girls of the Golden West）』など多数の作品を手がけている。また、カイヤ・サーリアホ（Kaija Saariaho）の曲からインスピレーションを得て製作・演出を行った作品にオペラ『遙かなる愛（L'Amour de loin）』『アドリアナ・マーテル（Adriana Mater）』『Only the Sound Remains -余韻-』があり、いずれも現代オペラとしては比較的メジャーな作品となっている。

最近の（パンデミック前の）作品に、サンタフェ・オペラでの『ドクター・アトミック』、フェスティバル・ドートンヌでのクロード・ヴィヴィエール（Claude Vivier）『コペルニクス、死の祭祀（Kopernikus: Rituel de la Mort）』、ザルツブルク音楽祭でのモーツァルト『イドメネオ』がある。

2020年末、世界的な新型コロナウイルス感染拡大に応答する形で、「維摩経」（大乘仏教の経典）の言葉を用いた映像作品『この身は無常…（this body is so impermanent …）』を発案。監督を務めた。

今後の活動に、新作『フォーヴェル物語（Le Roman De Fauvel）』のステージング、代表作『トリスタンとイゾルデ』や『黒い真珠、ジョゼフィンのための瞑想曲（Perle Noire: meditations for Joséphine）』の再演など。『フォーヴェル物語』では、中世音楽アンサンブル、セクエンツィア（Sequentia）の創立者であり音楽学者でもあるベンジャミン・バグビー（Benjamin Bagby）とのコラボレーションが実現。『トリスタンとイゾルデ』では鬼オビル・ヴィオラ（Bill Viola）の手がける映像が作品世界を深化させている。『黒い真珠』はマルチ・インストゥルメンタリスト（楽器奏者）でもある作曲家、タイソン・ショーリー（Tyshawyn Sorey）の作品で、出演はソプラノのジュリア・ブロック（Julia Bullock）。

ロサンゼルス・フェスティバル（1990・93）、アデレード芸術祭（2002）など、主要なフェスティバルも率いており、2006年にはウィーンの新フェスティバル、ニュー・クラウン・ホープ（New Crowned Hope）の芸術監督に就任。モーツァルトの生誕 250 年を記念して、若手と経験豊かなアーティストを招き、音楽、演劇、ダンス、映像、ビジュアルアート、建築といった様々な分野の新作を創るフェスティバルを開催した。さらに 2016 年にはオーハイ音楽祭（カリフォルニア）の音楽監督に就任した。

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）ワールドアーツ・アンド・カルチャー／ダンス学部教授としての貢献度も高く、同大ベーティウス研究所（Boethius Institute）の創設者でもある。その他、テルライド映画祭（Telluride Film Festival）レジデント・キュレーター、ロレックス・アーツ・イニシアティブ（Rolex Arts Initiative）メンター、マッカーサーフェローシップ（MacArthur Fellowship）受賞者、ヨーロッパ文化への貢献に対して贈られるエラスムス賞（Erasmus Prize）、ギッシュ賞（Gish Prize）に加え、栄えあるポーラー音楽賞（Polar Music Prize）を受賞。アメリカ芸術科学アカデミー（American Academy of Arts and Sciences）会員。2015 年には、ミュージカル・アメリカ誌（Musical America）のアーティスト・オブ・ザ・イヤーに輝いた。

翻訳：後藤絢子

Translation: Ayako Goto